昭和五年六月廿六日第三種郵便物認可
昭和六年三月廿五日發行

町村新報

發行日　毎月二回十五日卅日
編輯兼印刷發行人　酒井秀吉
發行所　福島縣石城郡磐崎村大字下湯長谷勝善三十八番地　町村新報社
定價　一部金十錢　一ケ月金二拾錢
廣告料　五號活字十二字詰一行金二十錢　別色刷　四十錢

時事公論（續）

これを思ふと立憲政治の本領は政黨内閣の爲に天下の公器を彩せられ、政治は國家國民の爲の政治でなく政治家が政權を以て私腹を肥やさんとする覇道政治に逆轉惡變しつゝあるのである故に眞に立憲政治の下に國利民福を增進せんと欲するならば只今の政黨即ち既成政黨を根本より覆滅しなければならぬ、既成政黨政黨政治には國民の不用意の間に政權病と言ふ國家に取りては最も恐るべき不治の重患政權結核菌が侵入し今や病勢益々ショケツを極め病既に膏毛に入つたものである。今日國民經濟の行詰りも思想國難の蔓延も皆政黨政治の政權結核病より出發して居るものである、こゝに氣付かずして民政だ政友だと政黨に油をかけて居る國民は實に憐れなものだ。銀行へ預けた金がとれなくなつたのも不景氣で何をやつても收支償はなくなり働かんとして職なく、國民塗炭の苦を嘗めつゝあるは皆政權結核病の國家的大災害だ、これを救治するには國民の政治的衛生思想を喚起して不衛生な事を絶体にさせぬことが最も大事中の大事である、それにはどうしたならよいか、即ち既成政黨を覆滅すること平たく言へば民政黨政友會等の議員には絶對に投票せぬことである而して目醒めたる政治意識によりて王道政治、眞の立憲政治を行うに最も適切なる新政黨を樹立すべきである。それには我建國の精神に立脚したる政黨でなければ何の役にも立たぬ我國で建國精神に立脚したる政黨と言へば未だ一人の議員も議塲に送つて居らないが唯一立黨養正會あるのみである。立黨養正會は王道政治還元の使徒であつて、眞に國を憂ふる者の結合である余は此立憲養正會の王道政治實現の力を發揮する日の一日も速かならんことを祈る者である。只今我國政の現狀を視るにどの方面にも統制がない、これが世の亂兆である、皆得手勝手な熱を吐く、宛かもイリ豆の如く一つ毎にはじく資本家は資本家、勞働者は勞働者、俸給取りは俸給取り、百姓は百姓と言つた風に各其立塲は異るけれとも、國家民族として物質慾より稍々離れて精神的に我等大和民族として脈絡一貫したる思想がなければならぬ、所謂國家民族としては納豆の如く融和協調して一本の糸で全体が結合し働くやうでなければならぬ、即ち三千年來養成し來たつた光輝ある國史の糸を以て八千萬同胞の精神を結び付け、共存共榮大なる統制力の下に國威を宣揚し民福を增進して行かなければならぬ、然るに我國の政治はイリ豆政治だ、上の方よければ下の方は何うでもよいと云うやり方だ自分さい滿腹なれば他人の空腹は少しも顧みない、物價の三割以上も下落して居るのに公租公課は依然として變らない、否縣稅の如きは追加が增徵して居る、これで下々の人民は立つて行かれませうか、聰明なる政治家は此邊に氣付かれぬ筈はあるまい、政權病の爲に目が眩んで居るのか而して國民生活には屁の糞にもならぬ、選擧權擴張、婦人公民權の年齡低下のと騷き廻つて居る、あんな百害ありて一利なく、唯町村事務を繁雜する事のみ考へて居る彼等は斷して國家の選良たる資格なき立憲政治家の假面を覆へる國賊だ、來るべき國縣會總選擧には國民の疾苦を顧みざる渠等には唯の一票も投票せぬやう今より注意して置く、彼等に投票する一票は清き一票に非ずして汚れた一票なり。

（つゞく）

磐崎村議補缺選擧

去る五日執行の磐崎村議補闕選擧は、定員四名立候補四名にて無競爭裡に無事平穩に終了し、左の當選を見た。

矢内彦次郎　藤原
佐藤幸吉　上湯長谷
磯上寅治　西郷
吉田直文　馬玉

初め二三名の落選者を見るにあらざるやと思はせたが補欠を言ふのと、不景氣の深刻さに一文でも無駄に使ふのはと差しかへた爲めと思ふ。

選擧と時計

右選擧に當り、午后四時迄といふので、同時に少し間のある譯で選擧塲へ行くと既に四時を經過したといふので入塲を斷はられた、處他の時計は十數分前である停車塲の時計を問合せると矢張り十數分(四時)前とある、一問題起らんとしたが役塲の時計を以て、動かす事が出來ないものとして、落着したが、嚴格に言へば大問題と思ふ、時計の機械の正確、初めに標準時に合せるといふ事が肝心である一時間に二三分も後れたり進んだり、選擧中止まつたりする時計では、由々しき問題となる、當局者は今後大に注意を要する事である

是も問題

舊獵村内貧困者に、ある一種の救濟をした時に村當局は村より救助する時は公民權を失ひ、選擧權も失格するといふ見解から、他の共濟會より其救濟を行つたものである、然し是も生活上公私の救助を受けた者は失格する筈である、磐崎村に於ける選擧も實際問題としては中々議論ある事と思ふ是は東京邊でも議論されてゐた樣である、今後選擧法の改正なき限り研究し置く必要がある、落選者がある塲合は殊に面倒な問題である、先の時計問題と共に監督官廳に於ても其の示指をし置くもよいと思ふ。

馬鹿者日記（一）

丹野生

▣二月二十二日

今年は不景氣で年始廻りは自然に廢止されてしまつた客人もなくて誠に結構た。裏の杉山でも見て來ようか晴渡る山上の眺は又特別で流石は春の海らしく波の音も幽であつた。やゝあつて寒を感じたので歸つてきた一封の書面が椽先に届いて居つた、其内容はこうである

村民各位ニ檄ス

現今ノ深刻ナル財界不況ニ對シ特ニ農村ハ疲弊ノ極ニ達シ此儘ニシテ推移センカ公租公課負擔ニ堪ヘス滯納續出シ收拾スベカラサルニ至リ自治体ハ根本ヨリ破壞セラルニ至ルベキハ火ヲ睹ルヨリモ瞭ナリ吾人ハ此窮境ヲ座視スルニ忍ヒス來本月二十四日ヲ期シ各位ノ御會同ヲ煩シ之ガ對策ヲ講セントス憂村ノ志士奮ツテ左記會場ニ御參集アランコヲ希フ

左記

期日　二月二十四日午后一時
會場　磐崎尋常高等小學校

昭和六年二月二十一日

發起者
大井川十郎
木田周平
久田克位
丹野廣吉
大和田隆介

本村前村長各位
本村現村會議員各位
現大字區長各位
農會總代人各位
在郷軍人分會長殿
青年團長殿

發起者の一人に俺の名も出て居る、此書面は大分各方面に配付されて居るようたが發起者の一人たる俺を世間では何と見たたらう定めし物すきな野郎た位の嘲笑的批評だらうな

▣二月二十四日　朝晴後曇雨となる

今日は字の人等は奉仕人足だと云ふので早朝から出て來た、何と云ふ麗はしい心持の人達たらう自分等の道子弟の通學道路それは雨の日も風の夜も通る人々に幸あれかしと祈る心から區長の指圖等は待つまでもない自分で進んでやらねばならぬとあつて道路の愛護奉仕だ、遠くより砂を運んで道に布くのであつた、川から箱て上ける、車で曳張るそれは一心不亂た、かくして村の道は步一步改善されて行くのであつた、午から空は搔き雲つて俄に寒さ覺えて來た。

綿のような雪が可成に降りて來た、益々勢が募る許り却々止みそうもない、いよ〳〵人足も中止のやむなきに至つたので明日續行することに約して今日は別れた

雪の爲お陰樣で有志大會に出られる吹雪に屈せす自轉車を飛ばし會塲なる學校に着いたのは午后三時頃であつた。

會塲には時局對策懇談會々塲の大ビラが張られてあつた雪の爲めに幸來會することが出來たと告けたら皆は非常に喜んだ集る人は二十五名位であつた、三十分程經つて會議は初めた、先つ久田氏開會の辭を兼ね時局に對する參考資料を各方面に渉つて縷々述べられる氏一流の博識には何時も乍ら傾聽させられる。何とか云ふ刑事は傍に居てしきりにペンを走らせて居た、多分要点の速記なんだらう。次に木田君も本村豫算につき削減意見を述べる會議は漸本調子になつて來た、木田君農會の補助削減に言及するや吉田直文君後方に突立ち熖々たる辨舌を以て遠くは我立國の本旨より近くは勅令による農會の建設に至るまで說き卷くつて高遠の理想を强調し農會の補助削減に反對しておつた。俺も木田君に讃成し農會の實際に即して削減の可なるを論すば吉田君大勢非なると悟れるか理想論を放つて削減論に讃成した。かくの如き步調で各種國体の補助は全部ショ減し進むことに一致した。

（以下次號）

◇ ◇ ◇